

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌



2022. 7. 8

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して—協同が息づくまちづくり—」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 2021年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会 2
3. 兵庫JCC2022年度活動計画 3
4. 第4回都道府県協同組合連携組織等全国交流会議
(オンライン会議・兵庫開催) に参加 4

C
o
n
t
e
n
t
s

5. コロナ禍の学生支援 学食に食材提供
2020年度「虹の仲間づくりカレッジ」第3回の取り組みについて ... 5
6. 今協同組合では—各協同組合からの報告—
JA（農協）／生協 6
JForest（森林組合）／JF（漁協） 7
7. 協同組合運動に生きる
甲南大学生協同組合 専務理事 内田 真紀子 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

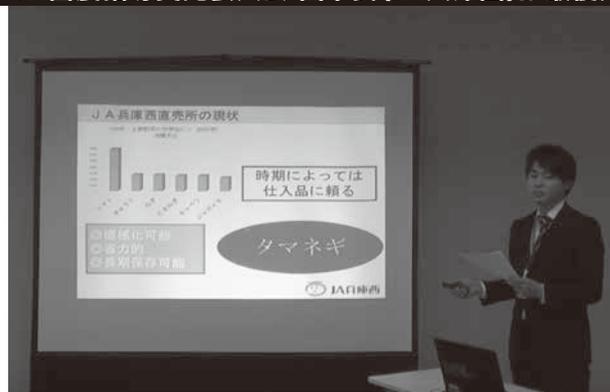
第17回新春トップセミナー



生協

1月8日、兵庫県民会館で、「第17回新春トップセミナー」を開催しました。経営トップ層やJA兵庫中央会、兵庫漁連など、オンラインを含め41人が参加しました。関西大学総合情報学部 地主敬樹教授より講演いただき、共助組織である生協が社会的セーフティネットの一つとして果たすべき役割について、ともに考えました。

JA営農指導員発表大会 山下氏(JA兵庫西)が最優秀



JA（農協）

JA兵庫中央会は2月18日、兵庫県農業会館で令和3年度JA営農指導員発表大会を動画審査で行いました。事前に収録した9JA9人の発表動画を審査し、「契約タマネギ事業」の取り組み 農家所得向上と、農産物直売所「旬彩蔵」の活性化を目指して」を発表したJA兵庫西の山下晃さんが、最優秀の兵庫県知事賞に輝きました。

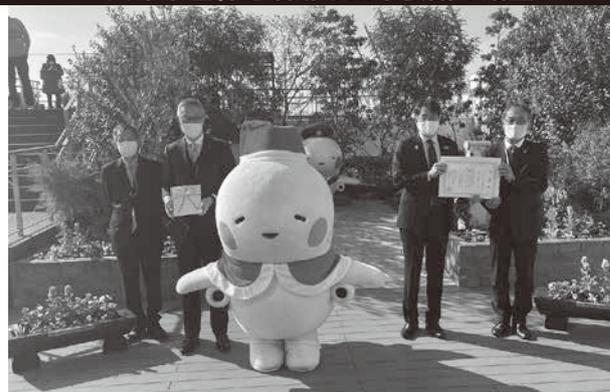
全国豊かな海づくり大会テーマソング



JF（漁協）

3月27日神戸市立須磨海浜水族園にて、令和4年11月に開催される全国豊かな海づくり大会を盛り上げるため、兵庫県出身シンガーソングライター植村花菜さんが作成したテーマソング「いのちをつなぐ碧（あお）い海」がお披露目されました。

兵庫県産材を活用した木製品の贈呈



JForest（森林組合）

2021年12月16日に地域産材の利用拡大や林業振興への貢献を目的に、大阪国際空港に兵庫県産材を活用した木製品を寄贈しました。(詳細はP7)

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫 JCC)
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・JF(漁協)・JForest(森林組合)

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794) 87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

2021年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会

兵庫 JCC は 11 月 30 日、姫路市内で 2021 年度協同組合研究・交流会を開催しました。

この研究・交流会は、生協、JA、JF、森林組合の各協同組合がお互いの事業・活動を学習・共有化し、今後のさらなる協同・連携を促進することを目的に開催しているもので、各協同組合の組合員・役職員など 29 人が参加しました。

姫路市白浜町にある姫路妻鹿港 JF 坊勢直販所 姫路まえどれ市場に集合した参加者は、最新式の高性能な船舶レーダーや海底地形を映し出すことのできる 3D ソナーなど、さまざまな機器を搭載した JF 坊勢の漁業見学船「第 8 ふじなみ」に乗船し、JF 坊勢周辺で行われている様々な漁業種類を見学しました。

まず、冬季の主幹漁業である海苔養殖と牡蠣養殖の漁場へ移動し、JF 坊勢職員から海面にのり網の張込みがされている浮き流し式養殖方法や筏式垂下牡蠣養殖の方法などが説明されました。

次に、海中の地形や潮の流れから魚の通り道を予測して網を設置する小型定置網漁業について、漁業者から網の構造や魚の誘い込み方法について説明を受けながら、3 度の網揚げを見学しまし

た。船上では、漁獲されたハマチの生き締め・神経抜きが実演され、参加者に刺身がふるまわれました。

最後に予定にありませんでしたが、JF 坊勢職員のご厚意により JF 坊勢組合員の水産加工場見学が行われました。加工場では日本三大珍味のひとつであるボラの卵巣を塩漬けにし、圧搾・乾燥した食品である「からすみ」の原料加工が行われており、取り出されたボラの卵巣が重量選別機により仕分けられる作業を見学しました。お話を聞くと加工原料として生け簀にボラが 500 トンキープされているそうで、従業員の方々はたいへん忙しく作業されていました。

また、各漁場の移動中には、兵庫県の豊かな海の再生に向けた取組みについて DVD 学習を行い、県内の豊かな海の再生に向けた活動について学習しました。

参加者の方々からは、漁業現場で様々な漁具や漁法を見学できたのでよかったとの感想が寄せられ、当研究・交流会を通じて協同組合間の相互理解を深めることができました。



牡蠣養殖筏の見学



小型定置網漁業の見学



ハマチ神経抜きの実演



ボラ加工場の様子

兵庫JCC2022年度活動計画

テーマ：協同組合の理念学習をすすめ、協同組合間協同による SDGs の達成に貢献する。

企画名	内容	規模	実施日
第100回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	世界の協同組合にたずさわる人々が心をひとつにして協同組合運動の前進を誓う。 テーマ：「協同の力で未来を拓く」 講演：「賀川ハル～豊彦の妻として、同志として～」 作家 玉岡 かおる 氏	約300人	7月1日(金)
虹の仲間づくりカレッジ	協同組合間協同の実現のため、各団体の若手職員を中心に協同組合人としての連帯感を醸成し、社会的課題解決に向けた実践に取り組む。 テーマ：SDGsの目標をふまえて『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践に繋げる。	約15人	①8月8日(月) ～9日(火) ②10月6日(木) ③3月9日(木)
第5回 都道府県協同組合連携組織 全国交流会	全国の協同組合の仲間が連携事例を共有し、これからのあり方について考え、交流を深める。	未定	11月18日(金)
協同組合研究・交流会	生産・流通・消費の相互理解を深めるため、生協、農協、漁協、森林組合の各団体が、互いの事業と活動を学習し、今後のさらなる連携を促進する。	約40人	未定
大学生の食の支援	大学生協と連携して県産食材を提供し、学内食堂で安価で美味しい食事を提供する。協同組合間連携による助け合いの実践とSDGs達成につながるエンガールな消費を啓発することを通して、若者の協同組合への理解と賛同を高める。	—	未定
ひょうごまるごと 健康チャレンジ 2022	すべての人の共通課題である心と体の「健康づくり」に貢献する取り組みとして、認知度の向上や参加者の拡大に取り組む。	—	7月～11月
一次産業振興・地域支援	一次産業振興の取り組みとして、兵庫県の豊かな資源の活用を進める。	—	随時
PHD協会(※)への協力	PHD 協会の活動を紹介する。	—	—

諸般の事情により、内容等変更になる場合があります。

(※) PHD 協会の概要について

【設立の経緯】

長年海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して1981年6月に設立。

【組織の目的】

1. アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。
2. 日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和(Peace)と健康(Health)を担う人材を育成(Human Development)し、「共に生きる」社会をめざすこと。

第4回都道府県協同組合連携組織等全国交流会議 (オンライン会議・兵庫開催)に参加

2021年11月5日、日本協同組合連携機構(以下、JCA)主催で、地域の協同組合連携組織による全国交流会議がコープこうべ協同学苑(三木市)を拠点としてオンライン開催され、44都道府県から約150名(全国組織含む)が参加。兵庫県にお越しいただくことはできませんでしたが、開催地の連携組織として、兵庫JCCのこれまでの歴史や現在の取り組みを全国に向けて発信しました。

比嘉政浩 JCA 代表理事専務から、コープこうべ100周年への祝辞とともに、「JCAでは地域課題を話し合う場(ラウンドテーブル)の開催を呼び掛けている、今回報告いただく事例はそうした話し合いの場から生まれたものも多い、この会議が各地域のラウンドテーブルの参考になれば幸いです」とご挨拶されました。

次に、兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)の岩山利久会長、会場となった生活協同組合コープこうべ協同学苑の浅田克己学苑長からそれぞれ挨拶。

続いて、午前の部として、兵庫JCCの歴史と概要、協同学苑の紹介、虹の仲間づくりカレッジなどの兵庫JCCの取り組み、また、兵庫県内の協同組合協同の事例と各団体の想いについて報告しました。

報告では、臨場感を出すために、「大学生の食支援」と「JA兵庫六甲とJF兵庫漁連によるパスカル三田での連携事例」の取り組みについては、事前取材・撮影した動画を活用。また、協同学苑の協同組合をテーマにした史料館を現地からライブ配信で紹介しました。

報告の最後には、兵庫JCC立ち上げ時から関わってこられた、兵庫県漁業協同組合連合会の突々淳専務理事から、協同組合間協同への想いやこれからの抱負などについてお話しいただきました。

午後の部では、青森県の援農ボランティアへの取り組みなど、6県から連携事例の報告があり、その後、グループに分かれて、他県の活動を参考にどのように自組織で応用していくかについて活発な意見交流が行われました。

最後に、青竹豊 JCA 常務理事は連携のポイントを確認するとともに、地域課題やアイデンティティの議論など次年度に向けた課題を呼びかけられました。

全国の先進的な連携事例を学ぶと同時に、今回の報告やその準備を通して、あらためて、兵庫県における協同組合間連携の歴史を認識し、つながりの深さを実感する機会にもなりました。



JF 兵庫漁連 突々淳専務理事の報告



事前に取材した動画による報告
(パスカル三田)

兵庫 JCC からの報告

1. 兵庫 JCC の歴史と概要 兵庫県生活協同組合連合会 松岡久雄専務理事
2. 兵庫 JCC の最近の活動
 - ・虹の仲間づくりカレッジ
 - ・大学生の食支援(動画)
3. 県内の協同組合間の連携事例
パスカル三田での JA 兵庫六甲と JF 兵庫漁連の連携事例など
(JA 兵庫六甲とコープこうべの連携: 移動店舗共同配車)
(JF 兵庫漁連とコープこうべの連携: とれびち)
(JF 兵庫漁連とコープこうべの連携: 虹の仲間であそび・海づくり)
4. 森林組合における協同組合間連携への期待
兵庫県森林組合連合会 築山佳永専務理事
5. 協同組合間連携への想いとこれからの抱負
兵庫県漁業協同組合連合会 突々淳専務理事

コロナ禍の学生支援 学食に食材提供

兵庫 JCC は、コロナ禍で困窮する学生を支援するため、県内の 8 つの大学生協と 1 つの高専生協を対象に、県産食材を提供しました。

JA グループは新米 1,340kg、漁連はシラスやマダイの切り身、明石だこ入りコロッケなどを提供し、生協食堂で数量限定の丼メニューとして、1食 250 円で提供されました。

今回、食材支援を受けた関西学院大学生協の池上正寿専務理事は「学生からおいしいという声が聞かれ、早い時間に品切れになった。学生から数を増やして欲しいという要望が出ている」と話しています。



丼メニューを受け取る学生

2020年度「虹の仲間づくりカレッジ」 第3回の取り組みについて

2020 年度「虹の仲間づくりカレッジ」第 3 回は、実践期間中に新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出たため、2021 年 11 月 2 日に開催しました。第 3 回では、コロナ禍で対面でのコミュニケーションや活動が制限される中、実践した結果を報告し、意見交換を行いました。

1 班 テーマ：海苔を通して考える海の環境と兵庫の農業

配食型の子ども食堂で来訪者に「豊かな海」について考えてもらいました。豊かな海で採れた海苔と、そうでない海で採れた色落ちした海苔を食べ比べてもらい、「豊かな海」のイメージを分かりやすく伝えました。



海苔の食べ比べ

2 班 テーマ：里山と海の活動団体と連携し、地域竹林の整備と利活用を考える

里山と漁業、竹材生産者をつなぎ、竹材を使った地域活性化の取り組みとして、県内の竹を牡蠣養殖筏に活用する取り組みを行いました。淡路島の里山保全活動団体と一緒に、筏を組み上げるイベントや勉強会を実施しました。また、竹材のさらなる活用方法を検討するために、竹炭を使った洗剤も作りました。



竹を使った筏の汲み上げ

3 班 テーマ：子ども食堂で食品ロスを考える

JA・漁協・生協から、食べられるが廃棄している食品を活用して、子ども食堂に提供する取り組みを行いました。加えて、子ども食堂の来訪者に食品ロスについて学習する機会を設け、各団体の食品ロスを減らすための取り組みや食べきり・使い切りを心がけて欲しいなど消費者へのお願いについて説明しました。



食品ロスについての学習会

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

JA(農協)から

持続可能な農業と地域づくりへの挑戦を決議～第35回兵庫県JA大会を開く～

JAグループ兵庫は2021年11月17日、神戸市内のホテルで「持続可能な農業と地域づくりへの挑戦」をテーマに、第35回兵庫県JA大会を開きました。新型コロナウイルスの感染防止の観点から会場への出席者数を減らすとともに、県内JA・連合会の各拠点に、オンラインシステムで配信。県内のJA・連合会の役職員ら約150人が実出席し、オンラインで25拠点から約140人が参加しました。

開会にあたり、JA兵庫中央会の澤本辰夫代表理事会長が「JAグループを取り巻く環境は大きく変化している。JAグループ兵庫は持続可能な農業・地域の確立をめざし、自己改革を継続的に実践していく」とあいさつしました。

大会議案をJA兵庫中央会の高品藤吉代表理事専務が説明。2022年度から3年間で重点的に取り組む項目として、「①新時代に向けて持続的に発展する農業」「②次世代にも魅力ある協同活動の展開」「③不断の改善・改革をすすめる経営基盤強化」「④協同組合運動を推進できる人づくり」「⑤信頼とつながり強化に向けた情報発信と「JA域を越えた事業・機能連携を起点とした組織再編の検討」について提案し、満場一致で決議されました。」

オンラインで参加したJA職員は「役員や管理職だけでなく、多くの職員が議案の内容を共有することができた。現時点の課題を改めて認識し、各重点項目に取り組み、実りのある3か年にしていく」と抱負を語りました。



県内JAグループ役職員150人が出席。オンライン配信も行った。

生協から

第3回災害対策委員会(拡大版)「BCP研修&図上演習」を開催

2021年12月10日、南海トラフ等の巨大地震や大規模自然災害に備え、「BCP(事業継続計画)研修会&情報連携図上演習」をオンライン開催しました。①事業継続計画(BCP)について理解を深め今後の災害対策に活かす②緊急時における情報共有手段としてオンライン等の可能性を探る③県との協定運用を通し緊急時の生協の役割価値について理解を深めることを目的に、兵協連災害対策委員会の拡大版として会員と行政・日本生協連をオンラインで結んで実施しました。

研修会では日本生活協同組合連合会 総合マネジメント部 岡田 篤氏より「全国生協大規模災害連携計画(BCP)改定と近畿エリアへの影響について」をテーマに講演いただきました。図上演習では、兵庫県南部明石海峡近辺を震源とするマグニチュード7の大地震発生を想定。前半は発災当日に兵協連災害対策本部を立ち上げ、緊急オンライン会議を招集する想定。会員生協は職員・施設被害状況を兵協連へメールまたはZoom会議中に口頭報告。兵庫県生協連対策本部から県と日本生協連に集約情報を報告しました。図上演習後半は発災3日目を想定し、協定に基づき県から物資供給や医療班派遣が要請され、対策本部が会員生協に対応の可能性を確認のうえ県に報告する情報連携訓練をしました。

災害時におけるより効果的な連携に向けて、改善課題の気づきにつながる有意義な図上演習となりました。



「災害対策委員会」を開催

JForest(森林組合)から

兵庫県産材を活用した木製品の寄贈

森林組合系統および農林中央金庫は国産材の利用拡大を目的に、地域材を活用した木育活動や木製品の寄贈に取り組んでいます。

このような活動を通じて、「森林と国産材利用の大切さ」、「地域の森林整備の中心的担い手である森林組合系統の役割」を広く発信するとともに、SDGs に掲げる「15 陸の豊かさを守ろう」の目標達成に向けて取り組んでいます。

このたび、その取り組みの一環として、大阪国際（伊丹）空港に、兵庫県産材を用いた木製プランターを寄贈し、同空港を運営する関西エアポートグループの公式キャラクター「そらやん」を配した展望デッキ庭園「そらやんのおにわ」に設置いたしました。併せて、オーナメント、ガーデンピックおよびコースターを寄贈し、空港で開催されるイベント等に活用していただきました。

今後、航空需要の回復が期待される空港内のフォトスポットに、地域材を活用したプランターを設置、オーナメント等を飾り付けることで、普段木材に触れる機会の少ない都市部の方に、森林の役割・大切さへの理解を深め、国産材への関心や利用意欲を高めていただくことで、兵庫県・日本の林業振興につなげたいと考えています。



そらやんのおにわ



オーナメント



ガーデンピック



コースター

JF(漁協)から

第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～ 大会テーマソング「いのちをつなぐ碧い海」

令和4年11月に明石市で開催する「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～」の大会テーマソング『いのちをつなぐ碧い海』が完成しました。

テーマソングは、兵庫県川西市出身のシンガーソングライター植村花菜さんに、大会テーマソング制作プロジェクトにて募集された341件の歌詞フレーズからインスピレーションを得て、制作されました。

この大会テーマソング『いのちをつなぐ碧い海』を聴いて、豊かな海について考えていただきたいと思います。

テーマソングは大会公式HPでも公開されていますので、ぜひ、視聴ください。

大会公式HP <https://hyogo-yutakanaumi.com/>



大会テーマソング 【いのちをつなぐ碧い海】 (作詞作曲:植村花菜)

豊かな海ってなんだろう?きれいな海?澄んだ海?
見た目の美しさだけでは豊かな海とは呼べないの
人も海もこの地球(ほし)も巡ってつながる大きな輪
ぼくらの豊かな海をみんなで守っていきたいな
いのちをつなぐ碧い海は未来への贈り物
生きとし生けるものすべてが
溶け合い創られていく恵み
みんなで一緒に考えようぼくらに出来ることを
碧く碧く豊かな海がいつまでも続きますように

命はぐくむこの海は魚のため人のため
たくさん恵みをもたらす大事な役目してるんだ
山や川から流れてくるすべてのいのちを大切に
ぼくらの豊かな海を力を合わせて守ろうよ
いのちをつなぐ碧い海は未来への贈り物
生きとし生けるものすべてが
溶け合い創られていく恵み
みんなで一緒に考えようぼくらに出来ることを
碧く碧く豊かな海がいつまでも続きますように

海から命が生まれ海の恵みに生きて
ぼくらは豊かな海とともに幸せの輪になる
いのちをつなぐ碧い海は未来への贈り物
生きとし生けるものすべてが
溶け合い創られていく恵み
みんなで一緒に考えようぼくらに出来ることを
碧く碧く豊かな海がいつまでも続きますように
碧く碧く豊かな海がいつまでも続きますように

協同組合運動 に生きる

「協同組合の繋がりに 期待すること」



甲南大学生協同組合 専務理事 内田 真紀子

【兵庫 JCC からの食の支援】

2020 年、新型コロナウイルスは海の向こうの話からすぐに国内全土に広がりました。2020 年入学の大学生は、「入学したら友達をたくさん作って、部活やサークルに参加して大学生ならではの交流」を期待していたことでしょう。4 月になり、多くの大学では入学式が行われず、授業もオンラインが中心となりました。大学生協は直接販売をするはずだった教科書を配送する作業に追われ、学生が来ないキャンパスでは店舗も開店できずに夏までを過ごしました。経営的にもひっ迫される中で「兵庫 JCC から大学生に何か支援ができないか」とお話をいただき、秋からようやく大学に出てこられる学生を元気づけてもらえる、大学に行ったらいいことがあると思ってもらえるようなことを、とお願いをしました。11 月になり、県産新米や県内で水揚げされた水産品をいただき、県内 10 大学生協にて食堂で調理、学生に提供ができました。仕切り板のある食堂で会話をしながら食事することも許されない状況ですが、利用した学生は「おいしい。大学に来てよかった」と感想を語ってくれました。それまで自粛が最優先とされていたキャンパスに活気が戻った瞬間でした。私が協同組合の繋がりの力を改めて感じた時です。この取り組みは 2021 年も継続をしてくださいました。

【協同組合の繋がりを感じる企画】

主に 18 歳から 22 歳までの 4 年で入れ替わる組合員が対象の大学生協では、生協以外の協同組合の皆様にご協力をいただいた活動も行っています。甲南大生協では毎年、兵庫県漁業協同組合連合会のご協力で「ジャンボ巻きずし」を学生と一緒に作っています。3メートル以上のものを「せーの」で巻くのですが、ひょうごの食材を使ってみんなで協力をしての活動はとても微笑ましいものです。巻きずしを作る前には「きれいな海と豊かな海のの違い」について勉強会の時間も設けます。学生たちに学びの場と楽しみの場を設けていただける毎年好評の企画です。2022 年は一人ずつ個別で

の巻きずしとなりましたが、学生の「せーの」の声が聞こえる日がまたくることを楽しみに待っています。



「ジャンボ巻きずし」づくり



勉強会「きれいな海と豊かな海のの違い」

【今後の協同組合連携に期待すること】

兵庫 JCC では、虹の仲間づくりカレッジや協同組合研究・交流会など 4 つの協同組合が共に集まり、学び、語り合う会が設けられています。私もいくつか参加をさせていただいており、交流という楽しい部分だけではなく、各協同組合が抱えている悩みや今後の展望などを聞くことができ、毎回新しい発見や発想のヒントをいただいています。

新型コロナウイルスのまん延は、その自粛活動により私たちの生活を大きく変えました。学生は以前の半数ほどの登校となり、大学生協の経営も非常に厳しくなっています。新型コロナウイルスが沈静化された後でも、オンラインやオンデマンドの授業は一部継続となる見込みから、今までとは違う事業展開の組み立てを進めています。ここ数年「個」が重要視され、誰かと一緒に何かをすること、直接出会うことが制限されている中で、協同組合連携によって可能になる「人と人が繋がることで大きな力になる」という考えは、今後の未来を担っていく学生組合員に希望を持ってもらうためにも、もっとも伝えたいことでもあります。私自身としても協同組合人として今後も様々な交流会に積極的に参加し、自身が学んだことを組合員へと広げていきたいと思っています。